

xx 年から yy 年までしどろもどろに やりました

森 本 雅 樹 (おじさん)

〈〒670-0806 姫路市増位新町 1-8-3-903〉

e-mail: hello@ojisan.jp



また何か叱られるかな？ 日本天文学会副理事長（だっと思ひますが）大沢清輝先生からの電話呼び出しに、おそるおそるお部屋に伺うと、天文月報の編集をしないか、とのご下問でした。同席は当時編集長の竹内端夫さん。そんなこと嫌いではないおじさんとしてはほとんど二つ返事で引き受けちゃいました。追って沙汰があらうから左様心得よ、と黄門様のようなお言葉でした。

日本に宇宙電波天文（当時は「電波天文」と言えば太陽の電波天文学でした）の望遠鏡がほしい、なんて考えて、みんなにそんな話をしたり、彼方此方に書いたり、宣伝も少しずつ浸透、個人人気も出てきた頃のことです。日本の天文学で何となく押さえられ気味のいろんな部分（電波天文以外にも）に光を当てるチャンスになるのでは、なんて下心もあったと思います。

外の顔は人気があっても、偉い先生方の後ろ盾はあんまりなかったおじさんですから、（否応なしに）スタッフは若く、そして強力でした。編集線路が何か月分も引かれていて、しかも即応性があった竹内編集委員会の面影が消えて、特集の原稿は集まっても、巻頭記事を頼んでいないことが

わかり、急遽自腹を切ったりしました。「定期的に編集会議を」という反省は編集の中から何度もいただき、反省や改善も試みましたが、三日坊主でした。若くて実行力、アイデア……いっぱい編集のおかげで「面白い」とか「変わった」とか言ってもらったこともありました。

小さいいいことも書きましょう。企業をまわって、しばらく据え置きだった広告費を一律2倍にさせていただきました。会計報告で突出していました。もう一つも広告です。望遠鏡やら測定器などの企業に「技術メモ」というページを作ってもらっていました。電波望遠鏡のホモロガス変形、大型シュミット補正版の研磨にNCを利用など、「原稿料は安くて失礼だから逆に広告料を」なんて理屈で、少しは収入になりました。企業のほうでも、宣伝になるからと理由をつけてくれたのでしょう。収入というだけでなく、一味も二味も雰囲気の違いが違ったページになり、ごく一部の方がたですが、楽しみにしていただきました。

まゝこんな文章のように、こんな取り留めもない編集長でしたが、チョッとずつ目立ちながら、何期か続いた編集委員会でした。

※森本さんは、

1969年から1975年まで天文月報編集委員を務められました。

（編集委員会）